

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

【09】震災ゴミの処理

【教訓情報】

01. 各市町では順次収集業務が再開されたが、当初は職員の確保も難しく、また交通渋滞にも悩まされ、通常時の半分程度しか収集できなかった。

【教訓情報詳述】

01) 神戸市では、現場職員に被災地内居住率が高く、交通渋滞の影響もあって職員確保が困難だったため、クリーンセンター職員も動員しての収集業務が行われた。

【参考文献】

【参考】神戸市におけるごみ収集の初期の状況については、[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.28-29]にある。これによると、職員の確保が難しかったこと(当日と2週間後の職員の出務状況について表18にある)から、クリーンセンター職員も動員しての収集業務がなされた。

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

【09】震災ゴミの処理

【教訓情報】

01. 各市町では順次収集業務が再開されたが、当初は職員の確保も難しく、また交通渋滞にも悩まされ、通常時の半分程度しか収集できなかった。

【教訓情報詳述】

02) 西宮市では、地震当日・翌日は職員が遺体収容作業等に従事していたため、ごみ収集は1月19日に再開された。

【参考文献】

【引用】<西宮市>地震当日と翌日は、市内が大混乱のためごみの収集ができず(職員の多くは遺体の収容作業などに従事していた)、震災後3日目の1月19日にごみの収集を再開したが、市の二つある収集事務所の一つが倒壊したうえ、道路・橋の損壊、路上に倒壊した家屋等による道路閉鎖、大量の資材運搬車両の集中などによって、収集作業は大幅に遅れ、遠隔地や被害が特に甚だしい地域などでは収集できなかった。[足立義弘「西宮市における震災廃棄物の処理」『消防科学と情報 No.46』(財)消防科学総合センター(1996/10),p.21]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

【09】震災ゴミの処理

【教訓情報】

01. 各市町では順次収集業務が再開されたが、当初は職員の確保も難しく、また交通渋滞にも悩まされ、通常時の半分程度しか収集できなかった。

【教訓情報詳述】

03) ごみ収集業務は交通渋滞に悩まされ、1月末の段階で通常時の50%しか収集できなかった。

【参考文献】

【引用】震災直後の大混乱のため、各市でごみの収集が始まったのは1月19日からであったが、神戸市及び阪神間では交通事情が悪く、1月末ごろまでは通常時の50%程度しか収集できなかった。[震災復興調査委員会『阪神・淡路大震災復興誌【第1巻】』(財)21世紀ひょうご創造協会(1997/3),p.216]

>

【引用】神戸市及び阪神間では交通事情が非常に悪く1月末頃までは通常時の50%程度しか収集ができないう状態であった。[阪神・淡路大震災調査報告編集委員会『阪神・淡路大震災調査報告 ライフライン施設の被害と復旧』土木学会・地盤工学会・日本機械学会・日本建築学会・日本地震学会(1997/9),p.281]

>

[引用] (尼崎市)震災直後は、交通渋滞がひどく収集も難航しました。このため、尼崎市環境事業公社や民間企業、さらに多くの市町からの応援を得ました。[恵美須 幹夫『大震災かく闘えりー災害廃棄物処理の実態ー』(株)日報(1996/5),p.33-34]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

[09] 震災ゴミの処理

【教訓情報】

02. 焼却施設の被災や交通渋滞に対応するため、仮置き場を設置するとともに、夜間収集が実施された。一旦確保した仮置き場を、他の災害対策用途に使用するため明け渡さなければならぬこともあった。

【教訓情報詳述】

01) 神戸市においては、交通渋滞に対応し、かつ重機による効率的な収集を行うために、2月3日～3月25日にかけて夜間収集が実施された。

【参考文献】

[参考] 夜間収集の実施については、[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.33]にある。これによると、土木協会および市内一般廃棄物処理業者により、2月3日～25日に実施されたこととなっている。

>

[参考] 神戸市の記録によると、実施期間は、土木協会が2月3日～10日、市内一般廃棄物処理業者によるものが2月13日～3月25日となっている。[『阪神・淡路大震災ー神戸市の記録1995年ー』神戸市(1996/1),p.268]

>

[引用] 大量に出たごみを処理するには、人間の手による収集の限界を越えており、ショベル等機械力を導入する必要があった。しかし、倒壊した家屋や道路崩壊等によって、昼間は慢性的な交通渋滞であり、そのような作業環境の中で大型車両等での作業は不可能であった。...(中略)...ショベル1台・ダンプ5台を1班とし、5班体制で夜間収集を行い仮置場に集積した。[『阪神・淡路大震災ー神戸市の記録1995年ー』神戸市(1996/1),p.268]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

[09] 震災ゴミの処理

【教訓情報】

02. 焼却施設の被災や交通渋滞に対応するため、仮置き場を設置するとともに、夜間収集が実施された。一旦確保した仮置き場を、他の災害対策用途に使用するため明け渡さなければならぬこともあった。

【教訓情報詳述】

02) 膨大なごみ発生量と道路寸断による交通渋滞、ごみ焼却施設の被災により、神戸市では市内6カ所に仮置き場が設置された。

【参考文献】

[参考] 震災ごみの仮置き場設置状況については、[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.27]これによると、市内には東クリーンセンター隣地、小野浜グランドなど6箇所の仮置き場が設置された。

>

[引用] この度の廃棄物処理のうえで仮置場の確保は非常に重要な位置を占めた。仮置場等の用地は、緊急活動なり物資基地等の救援活動、あるいはガレキ置場、仮設住宅用地等と競合することになる。(略)民間用地も含め、かなりの困難を要したが、(略)臨海部に仮置場を設け中継により荒ごみを主体に処理した [石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.30]

>

[引用] (震度6エリア自治体アンケート結果)市内6ヶ所に仮置場設置。仮置場は運輸省用地であったためすばやく対応できた。処理業者が土木業者だったので重機などの処置が早くできた。[『平成9年度防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域) 調査票』(財)阪神・淡路大震災記念協会(1998/3),p.110]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

【09】震災ゴミの処理

【教訓情報】

02. 焼却施設の被災や交通渋滞に対応するため、仮置き場を設置するとともに、夜間収集が実施された。一旦確保した仮置き場を、他の災害対策用途に使用するため明け渡さなければならぬこともあった。

【教訓情報詳述】

03) 一般廃棄物処理業者や大阪廃棄物処理事業者連絡会のボランティアにより、仮置場からの夜間中継も実施された。

【参考文献】

【引用】 広い仮置き場もどんどん溜まるごみで溢れだしそうな状況となり、これの搬出が問題となった。中継の方も、昼間は走れないため夜間中継により、仮置場のごみを最終処分地へ搬入した。

・大阪市廃棄物処理事業者連絡会議(3/8～3/14)

東クリーンセンター隣地から布施畑環境センターへ、夜間中継を行った。

延べ264台

[『阪神・淡路大震災－神戸市の記録1995年－』神戸市(1996/1),p.268]

>

【参考】 夜間中継については、一般廃棄物処理業者(2/11～3/31)によるものと、大阪廃棄物処理事業者連絡会議(3/8～3/14)によるものがあった。これについては、[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.30]参照。

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

【09】震災ゴミの処理

【教訓情報】

02. 焼却施設の被災や交通渋滞に対応するため、仮置き場を設置するとともに、夜間収集が実施された。一旦確保した仮置き場を、他の災害対策用途に使用するため明け渡さなければならぬこともあった。

【教訓情報詳述】

04) ごみの仮置き場の中には、仮設工場や瓦礫置き場等と競合したため、明け渡されたところもあった。

【参考文献】

【引用】 ようやく確保した仮置き場(大阪ガス跡地・兵庫突堤)も、仮設工場や瓦礫置き場等と競合し、明け渡さなければならなかった。[『阪神・淡路大震災－神戸市の記録1995年－』神戸市(1996/1),p.268]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

【09】震災ゴミの処理

【教訓情報】

03. 他都市、自衛隊、企業ボランティア等により、ごみ収集作業の応援が行われた。また、他市町による焼却応援も行われた。

【教訓情報詳述】

01) 被害の大きかった神戸市、西宮市などでは、1月24日以降、全国他都市の136団体延べ4,155台による応援収集が実施された。

【参考文献】

【引用】 一部の市では他市町等の応援を求め緊急対応した。収集運搬に係る応援市町等は、136団体延

べ4,155台におよんだ。[『阪神・淡路大震災 兵庫県1年の記録』兵庫県知事公室消防防災課(1997/7),p.245]

>

[参考] 被災地におけるごみ収集・焼却の概要については、[阪神・淡路大震災調査報告編集委員会『阪神・淡路大震災調査報告 ライフライン施設の被害と復旧』土木学会・地盤工学学会・日本機械学会・日本建築学会・日本地震学会(1997/9),p.281]にある。これによると、ごみ収集に関しては、一部の市が他市町等の応援を含めて136団体延べ4,155台の支援を受けた。

>

[引用] <神戸市> 1月24日から4月8日まで継続的に他都市の方々の応援を受けた。収集・中継部門を併せて58市町(21都道府県)から、1日最大240台、延べ10,288人の応援をいただいた。被災後の劣悪な環境のなか、地理不案内や収集方法の違いなどの条件を超えて自給自足の体制で長期間にわたって支援いただき廃棄物処理の正常化に非常に大きな役割を果たしていただいた。[石谷隆史『災害時の廃棄物処理』『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.31]

>

[参考] 西宮市における応援収集は、3月末までで43市12町9団体、車両延べ1,188台、人員延べ3,400人とされている。[足立義弘『西宮市における震災廃棄物の処理』『消防科学と情報 No.46』(財)消防科学総合センター(1996/10),p.21]

>

[引用] (尼崎市) 尼崎市環境事業公社や民間企業、さらに多くの市町からの応援を得ました。可燃ごみ収集は、箕面市・摂津市・池田市・茂木市から延べ七二人、収集車両二四台の支援。大型ごみ収集は、東大阪市・吹田市・摂津市・泉佐野市・交野市・富田林市から延べ二七六二人、収集車両九二台の支援を頂きました。[恵美須 幹夫『大震災かく闘えり - 災害廃棄物処理の実際 -』(株)日報(1996/5),p.33-34]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

[09] 震災ゴミの処理

【教訓情報】

03. 他都市、自衛隊、企業ボランティア等により、ごみ収集作業の応援が行われた。また、他市町による焼却応援も行われた。

【教訓情報詳述】

02) 自衛隊により、市街地路上など交通障害となる箇所について粗大ごみの収集も行われた。

【参考文献】

[参考] 自衛隊によるゴミの処理については、[『阪神・淡路大震災災害派遣行動史』陸上自衛隊中部方面総監部(1995/6),p.170]にまとめられている。これによると、実施期間は1月27日から2月7日までの12日間、神戸市内の須磨・長田・兵庫・中央・灘・東灘に限定して計2,105t余りのゴミが西区布施畑処分場までの回収・運搬が実施された。

>

[引用] 1月30日から2月3日まで、市街地の路上等、交通障害のある箇所を中心に自衛隊の方々による応援をいただいた。[石谷隆史『災害時の廃棄物処理』『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.31]

>

[引用] 神戸市及び阪神間では、交通事情が非常に悪く、1月末頃までは通常の50%程度しか収集ができなかった。ごみ収集は、1月末に通常の収集形態に復帰したが、災害によるごみ発生量が多く、積み残しがあるため、特に神戸市においては自衛隊の出動を要請し、一部の市では他市町等の応援を求め緊急対応した。収集運搬に係る応援市町等は136団体、延べ4,155台に及んだ。[和田安彦『循環型社会づくりに向けた取り組み』『阪神・淡路大震災 復興10年総括検証・提言報告(7/9)』(第3編 分野別検証) V まちづくり分野』兵庫県・復興10年委員会(2005/3),p.380]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

[09] 震災ゴミの処理

【教訓情報】

03. 他都市、自衛隊、企業ボランティア等により、ごみ収集作業の応援が行われた。また、他市町による焼却応援も行われた。

【教訓情報詳述】

03) 一般企業ボランティアによるゴミ収集も実施された。

【参考文献】

[引用] 2月1日から3月31日の長期にわたって、「三菱重工地域復旧支援体・ゴミ収集部隊」の方々に、長田・事業所管内で大量に排出された荒ゴミ収集について応援をいただいた。[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.32]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

[09] 震災ゴミの処理

【教訓情報】

03. 他都市、自衛隊、企業ボランティア等により、ゴミ収集作業の応援が行われた。また、他市町による焼却応援も行われた。

【教訓情報詳述】

04) 被害を受け再稼働できないゴミ処理施設があったため、他市町・事務組合44団体において11,620tの焼却応援がなされた。

【参考文献】

[引用] ゴミ処理施設関係では、... (中略)...2月20日に地下浸水をしていた神戸市の東クリーンセンターを最後にすべての施設が稼働した。この間、ゴミ消却の応援を求めた他市町・事務組合は44団体で、その焼却量は11,620tに及んだ。[『阪神・淡路大震災 兵庫県1年の記録』兵庫県知事公室消防防災課(1997/7),p.245]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

[09] 震災ゴミの処理

【教訓情報】

04. 避難所となった施設からは大量のゴミが出され、収集には困難が伴った。神戸市では、一般業者へ委託しての収集も行われた。

【教訓情報詳述】

01) 避難所からは、大量のゴミが出され、その施設の従来からのゴミステーションに出されたほか、運動場等に積まれていた。

【参考文献】

[参考] 神戸市における避難所ゴミの収集については、[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.32]参照。これによると、避難所におけるゴミは、発生量の多さと保健・衛生面の観点から毎日収集が必要だったため、一般廃棄物処理業者による収集が行われた。

>

[引用] 避難所のゴミは、避難所となった学校、集会所など、その施設の従来からのゴミステーションに出される場合や、運動場に積まれている場合などがあったが、収集能力の範囲で、なるべく計画的に収集できるよう努めた。[足立義弘「西宮市における震災廃棄物の処理」『消防科学と情報 No.46』(財)消防科学総合センター(1996/10),p.22]参照。

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

[09] 震災ゴミの処理

【教訓情報】

04. 避難所となった施設からは大量のゴミが出され、収集には困難が伴った。神戸市では、一般業者へ委託しての収集も行われた。

【教訓情報詳述】

02) 避難所ごみの特徴としては、特に弁当がらやカップラーメン等の容器などが多く、通常の1人あたり排出量より多かった。

【参考文献】

[参考] 避難所ごみの内容については、廃棄物学会の調査結果が、[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.22 表10]に示されている。これによると、特に避難所ごみにおいては、「弁当がら」が24%と最も多く、次いで「カップラーメンなどの容器」21%、「がれき」10%、などとなっていた。

>

[参考] 避難所から出されるごみの内容、量については、[『阪神・淡路大震災－神戸市の記録1995年－』神戸市(1996/1),p.272]にもある。

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

[09] 震災ゴミの処理

【教訓情報】

04. 避難所となった施設からは大量のごみが出され、収集には困難が伴った。神戸市では、一般業者へ委託しての収集も行われた。

【教訓情報詳述】

03) 神戸市では、臨時的に民間業者の協力を得て避難所のごみを回収した。

【参考文献】

[参考] 毎日収集が必要だったため、環境共栄事業協同組合の協力を得て収集、1月24日～3月31日まで延べ2,218台、一日平均33台による収集が行われた。[『阪神・淡路大震災－神戸市の記録1995年－』神戸市(1996/1),p.272]

>

[引用] 避難所の数がピークに達し、当初直営でゴミ収集を行っていたが、街中でのゴミ排出量の増大に対応するため、臨時的に民間業者の協力を得て収集を実施。[宮下厳巨・山下清治・徳岡照雄・吉原藤雄「神戸市における大震災による廃棄物処理施設の被害及び廃棄物処理状況について」『都市清掃 Vol.48, No.207』(1995/8),p.24]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

[09] 震災ゴミの処理

【教訓情報】

05. 特に瓦礫を含む荒ゴミの発生量が増加した。ゴミ内容も、発泡製品やペットボトル、カセットコンロの増加など震災後の生活を反映するものとなっていた。その後、避難所から仮設住宅へという被災者の移転に伴って、身の回り品等の不要品が大量に排出された。

【教訓情報詳述】

01) 災害廃棄物である荒ゴミの排出量は、神戸市で前年比約5倍(2月)にもものぼり、その後夏頃までは2倍近い量が続いた。一世帯当たりの耐久消費財廃棄物の排出量は、0.89t、12立方メートルとの推計もある。

【参考文献】

[参考] ごみの発生量については、[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.18-19]参照。これによると、災害廃棄物である荒ゴミの排出量は、神戸市で前年比約5倍(2月)にもものぼり、その後夏頃までは2倍近い量が続いた。一世帯当たりの耐久消費財廃棄物の排出量は、0.89t、12立方メートルとの推計もある。

>

[引用] 震災後、一気に排出されたと思われる主要耐久消費財の一世帯あたり重量・容量の推計データ(京都大学環境保全センター推計)...(中略)...によると、一世帯あたり重量で0.89t、容量で12立方メートルが排出されたと推計されている。[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.24]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

【09】震災ゴミの処理

【教訓情報】

05. 特に瓦礫を含む荒ゴミの発生量が増加した。ゴミ内容も、発泡製品やペットボトル、カセットコンロの増加など震災後の生活を反映するものとなっていた。その後、避難所から仮設住宅へという被災者の移転に伴って、身の回り品等の不要品が大量に排出された。

【教訓情報詳述】

02) ごみの内容としては、厨芥が減少している一方で、弁当がらなどの発泡製品、ペットボトル、カセットコンロボンベなどの増加が目立った。

【参考文献】

【参考】廃棄物学会による避難所ごみ、家庭系ごみの組成調査結果については、[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.22-24]に紹介されている。これによると、避難所ごみとして弁当がら、カップラーメンの容器などが目立ただけでなく、家庭系ごみにおいても陶器類・家具類・瓦礫について、ライフラインの停止による影響からカップラーメンなどの容器、弁当がら、ペットボトルが多くなっていた。また、ガスボンベの多さも目に付いた。

>

【参考】発泡製品(弁当がら)やペットボトル、廃スプレー缶(特にカセットコンロボンベ)の増加を指摘するデータがある。[高月紘・酒井伸一・水谷聡「災害と廃棄物性状」『廃棄物学会誌 Vol.6, No.5』(1995),p.14-15]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

【09】震災ゴミの処理

【教訓情報】

05. 特に瓦礫を含む荒ゴミの発生量が増加した。ゴミ内容も、発泡製品やペットボトル、カセットコンロの増加など震災後の生活を反映するものとなっていた。その後、避難所から仮設住宅へという被災者の移転に伴って、身の回り品等の不要品が大量に排出された。

【教訓情報詳述】

03) 避難所から仮設住宅への移転に伴い、寝具類、畳、家具等の身の回りの不要品が一時的に大量に排出された。

【参考文献】

【引用】避難生活が長期にわたり、衣替時期も春、夏と2度迎えたことや仮設住宅への移転などから、毛布・ふとん等の寝具類、畳、ポリタンク、家具類、その他身の廻りの品等の不要品が一時的かつ大量に排出された。可能なものはリサイクルや備蓄を行ったが、大部分はやむを得ず処分した。[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.32]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

【09】震災ゴミの処理

【教訓情報】

06. ゴミ排出マナーの低下も見られ、分別の不徹底、路上の不法投棄などが多発したため、美化運動の推進などの対策も実施された。

【教訓情報詳述】

01) 可燃ゴミと不燃ゴミの分別が不徹底となり、処理施設における焼却残滓率が高くなった。

【参考文献】

【参考】混合収集せざるを得ず、クリーンセンターの焼却残滓率が非常に高くなった。表9 クリーンセンターにおける焼却残滓率[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9),p.21]

> [参考] 神戸市において、家庭ごみ(いわゆる可燃ごみ)の中に含まれる空き缶の割合が増えているとのデータもある。[高月紘・酒井伸一・水谷聡「災害と廃棄物性状」『廃棄物学会誌 Vol.6, No.5』(1995), p.15]

> [引用] (震度7エリア自治体アンケート結果)地震後は通常の2.5倍くらいのゴミが運ばれてきた。当初は可燃ゴミ(ガラスの破片)等が分別されずに、相当に混入したため、重くなった。[『平成9年度防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域) 調査票』(財)阪神・淡路大震災記念協会(1998/3), p.109]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

[09] 震災ゴミの処理

【教訓情報】

06. ゴミ排出マナーの低下も見られ、分別の不徹底、路上の不法投棄などが多発したため、美化運動の推進などの対策も実施された。

【教訓情報詳述】

02) 路上への不法投棄、散乱なども多発し、いわゆるゴミがゴミを呼ぶ状態となった。

【参考文献】

[引用] 震災による混乱とか、排出マナーの低下などからいたるところで、弁当ガラ空き等の散乱がみられたほか、空地、道路上などに大量のごみが捨てられるなどの不法投棄が多発した。いわゆる「ごみがごみを呼ぶ」状態が夏頃まで続き、市民生活の正常化とともに、徐々に減少してはいったが、一方では、家庭系・事業系を問わず、本来ごみステーションでないところに、ごみが出されているなどの苦情が相次いだ。とくに、ライフラインの復旧に伴う店舗の再開時には、苦情処理が待たなしの状況におかれるため、これらへの対応も大きな負担となった。[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9), p.20]

> [引用] (震度6エリア自治体アンケート結果)道路のいたるところに廃棄物が排出されたため収集能力の限度を超えた。[『平成9年度防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域) 調査票』(財)阪神・淡路大震災記念協会(1998/3), p.110]

> [引用] 政策提言会議やワークショップにおいて最近マナーが低下しているという意見が多く出された。一部の心無い人によるごみの不法投棄や放置自転車、落書き、貼り紙等が美しいまちを阻害する要因になっている。一方で、まちを美しくしようと自ら意欲的に取り組もうとする地域や企業の動きもでてきている。[『平成15年度「復興の総括・検証」報告書』神戸市復興・活性化推進懇話会(2004/1), p.141]

【区分】

2. 第2期・被災地応急対応(地震発生後4日～3週間)

2-05. 都市基盤・サービスの復旧

[09] 震災ゴミの処理

【教訓情報】

06. ゴミ排出マナーの低下も見られ、分別の不徹底、路上の不法投棄などが多発したため、美化運動の推進などの対策も実施された。

【教訓情報詳述】

03) 散乱ごみ対策として、美化活動の推進などが行われた。

【参考文献】

[参考] 神戸市が実施した散乱ごみ対策については、[石谷隆史「災害時の廃棄物処理」『都市政策 no.93』(財)神戸都市問題研究所(1998/9), p.20]に示されている。これによると、婦人会、自治会等の各種団体、ボランティアなどによる美化活動が徐々に本格化したほか、平成7年10月には“美緑花アップ市民運動「一斉美化の日」”を設定して市民啓発とまち美化が進められた。また、翌年6月にはいわゆる「ポイ捨て禁止条例」が施行された。

> [引用] (正司泰一郎・当時の宝塚市長のインタビュー発言)
震災復興のときに、町の中ががれきの山と化して、意識が落ちたのですね、モラルが落ちた。私は、復興は環境政策と一緒にやるべきということで平成7年と8年を環境の年としたのです。
[『阪神・淡路大震災復興誌』[第8巻]2002年度版』(財)阪神・淡路大震災記念協会(2004/3), p.95]